

「仙台真田家」のこと

～東北仙台も大河ドラマ「真田丸」で盛り上がっています～

宮原 豊 (9組)

元和元年（1615年）大坂夏の陣で幸村長男の大助は父とともに勇猛に戦い最後は自刃し、そこで幸村の血筋は途絶えたかと思われるのですが、幸村は敵方の伊達政宗の重臣片倉小十郎重長の陣中に秘かに子女（1男4女）を託したと言われています。その後、遺児たちが白石城にて養育されていると知り、真田家旧臣の三井奉膳等も白石藩に身を寄せたと伝えられます。姉の阿梅が白石城主・片倉重長の後妻となり、弟の大八（幸村次男）は片倉四郎兵衛守信と名乗りやがて伊達家に召抱えられ、次代の辰信は真田家を復名し、仙台藩士として宮城県蔵王町に領地 300 石を与えられました。

徳川方の厳しい探索の中を幸村遺児は如何に生き延びたのか、伊達の忠臣であった片倉が主君・伊達政宗の許可なく幸村子女を匿うはずもなく、そこには支倉常長の慶長遣欧使節団をローマにまで送り込んだ政宗ならではの天下への野望が隠されていたのか、あるいは勇将・幸村への伊達・片倉の敵味方を超えた友情・信義の厚さなのか、知られざる歴史の真実とは何か興味津々であります。一説には片倉による幸村子女略奪説まであるそうですが、京都伏見時代に真田と伊達の屋敷が隣同士であった、あるいは片倉も真田も元は諏訪神社つながる旧知の間柄であったので幸村は生前から子女の養育を片倉に依頼していたのではないかと等々、遺児が白石城に匿われた経緯には諸説あるようです。

私事ですが、平成 10 年～12 年（1998～2000）にかけての仙台勤務の時に、仙台市泉区でその寺を発見しました。一旦はちょっと通り過ぎたものの、「真田幸村公ゆかりの寺」の大きな看板に驚き引き返すと、山門には幸村からの系図・由来が記された案内板が大きく掲げられていました。その時はカメラもなく、いつか再訪しようと思いつ果たせないまま仙台を離れました。それから 7～8 年後、幸村ゆかりの寺を再訪しようと試みたけれど名前も所在地も見つからず、キツネにつままれたような思いのまま放念していました。最近また幸村遺児の物語を聞き、記憶を頼りに地図を広げて再度探索してみたけれどやはり見当もつきません。宮城県白石市の片倉家墓所や蔵王町には幸村遺児や末裔に縁のある寺や墓所が残されているのに、確かに脳裏に刻んだ仙台市泉区の寺は全く検索に引っかかってきません。14～5 年前、ひょっとすると何か夢を見ていたのかもしれないと思い始めていました。

今般、この寺を検索する過程で仙台真田氏のことをいろいろ知ることができました。今思えば不明を恥じるばかりですが、今から 13 年前の平成 13 年（2001 年）に 6 府県から 13 市町村の代表者が参加して「新世紀・真田サミット」が白石市において開催されています。なんと真田サミットは 1998 年から毎年（11 月ごろ）開催されており、白石市でのサミット開催は第 4 回目だったそうです。詳しくは報告書をご覧いただきたいが、幸村遺児の残した仙台真田家の歴史が詳しく紹介されており、また「真田サミット」は全国に広がる真田家関連情報の総集編とも言えるサイトです。

新世紀「真田サミット」報告書（白石市）

<http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/kikaku/sanada/image/houkokusyoyo.pdf>

「真田サミット」rokumonsen.com :

<http://www.rokumonsen.com/source-of-future/sanada-shiseki-tanbo/sanada-event-guide/sanada-event-list/sanada-summit/index.html>

大河ドラマ「真田丸」が決定し、仙台真田家当主による講演会や真田家ゆかりの地を巡る旅が企画されるなど宮城県でも白石市や蔵王町を中心には大いに盛り上がっています。当主 真田徹氏のブログをご覧ください。また、同じく幸村末裔の西村幸雄氏の著作「仙台戊辰史」も興味深いです。400年を通して幸村末裔には多くの傑物が輩出していますが、人々の心と心とを結ぶ「男気・義侠心」の歴史ロマンに大いに勇気づけられる思いがします。

仙台真田氏当主 真田徹氏のHP :

<http://www1.odn.ne.jp/cah49810/papa/index.htm>

仙台戊辰史：幸村の10代目 真田喜平太の戊辰戦争での活躍：

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201311/20131104_15002.html

仙台市泉区の寺の話題に戻ります。あれこれ粘り強い検索の結果、仙台在住の郷土史家のブログの中に「泉区の柳澤寺（りゅうたくじ）は以前 真田幸村公ゆかりとしていたが、最近 案内板は撤去された」と書かれているのを見つけました。地図上で確認すると自分の記憶と完全に一致します。関東同窓会会報には敢えて名を伏しましたが、電話をすると「確かに真田家ゆかりと伝えられていたが、専門家からも指摘され、真田家からも撤去してほしいと要請されたので、幸村公ゆかりと名乗ることはやめた」との回答。ただし、「福島方面の檀家が真田家関係だとのことで案内板を作ったが、それは幸村のお父さん（昌幸）の関係だったとのことでした」と言い添えられました。蒲生氏郷氏に連なる一族が真田と姻戚関係があったと話もあるものの、寺と真田家を結びつける根拠には乏しく、むしろ世間で大河ドラマ「真田丸」が大きな盛り上がりを見せている中で、その前に看板を撤去したことにほっとしているようにも聞こえました。この話題は関東同窓会会報に投稿しましたので、そちらを読んでください。

ところで、真田幸村公末裔との関係はないかもしれないけれど、この「柳澤寺」のことをもう少し調べると興味深いことが出てくるかもしれません。寺の所在地の旧「上谷刈(かみやがり)邑-仙台市泉区-」の鎮守は「八木沢神社」であったそうですが、信州上田周辺にも八木沢地名があり、また柳澤の苗字が多く、信州小県郡とまったく無縁ではないという人がいます。そう言えば、上田電鉄・別所温泉の隣は「八木沢駅」です。ある人名事典には、「由利十二頭は多くが信濃より移住の士であり、その中でも柳澤氏は頭一つ抜きん出た存在であった」との記述があるそうです。奥州藤原秀衡の八木沢牧場と由利氏の因果等をもっと深く調べなければなりません。東北（仙台市泉区）と信州小県郡との関係は7~8世紀の蝦夷征討の時代まで遡るのかもしれませんが。

最後に余談を一つ、八木沢神社は「若有(わかあり)家」の屋敷神で、柳澤寺は若有家の菩提寺であったが、若有家は焼失後に離散したものの今でも八木沢神社跡には若有家の遺跡が残されているそうです。これは添付の「若生(わこう)さん いらっしゃい」に紹介されていますが、我らが少年時代からのあこがれの女優・若尾文子さん(仙台出身)の本名の若生家と若有家とは先祖が同じだそうです。自分とは何の関係もないにもかかわらず、なんだかうれしくなっていました。

若生(わこう)さん いらっしゃい:

<http://wakasan.blog.so-net.ne.jp/2010-11-13>

以上

(14年11月9日)